

がん相談 ホットライン



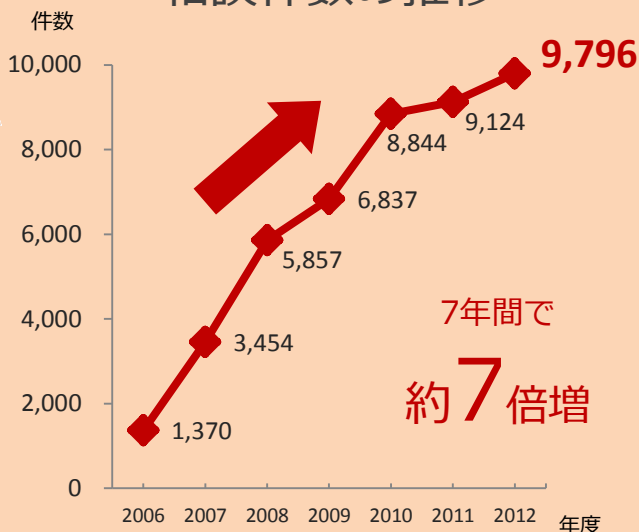
今後の生活のこと、治療や薬のこと、心のこと、その他がんに関するいろいろなこと……。

誰に相談したらいいのか分からない。不安な気持ちを聞いてほしい。

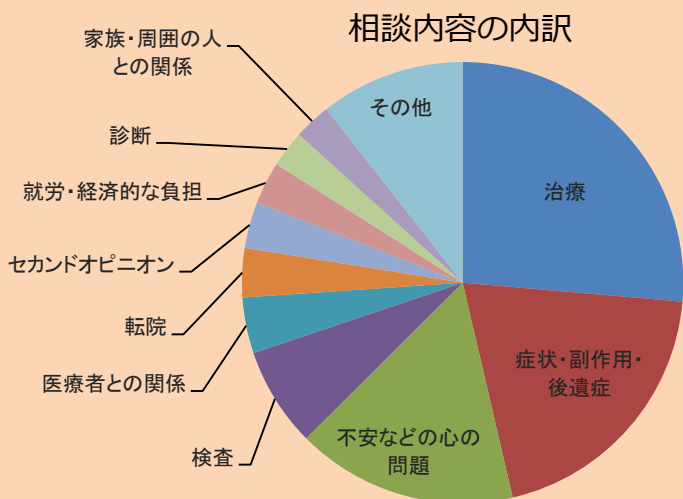
がん相談ホットラインは、そんながん患者さんや家族、大切な人からのご相談を、相談員の看護師や社会福祉士が無料で受けています。

リレー・フォー・ライフの寄付で相談体制が拡充し、多くの方に寄り添えるようになりました。

相談件数の推移



主な相談内容



相談体制の充実

相談員 2人→17人

受付日 平日のみ

→祝日を除く毎日

相談時間 3時間→8時間

- 周囲の人につらさを分かってもらえない。
- 担当医が忙しそうで質問しにくい。
- 不安などから、死にたいほど辛いと思う。
- 「副作用がつらく、どうにかならないか。」
- 家族を疲れさせてしまうので、話せない。
- 複数の治療法から、どのように選んでいいのか分からない。

相談者からの感謝の言葉

- ・漠然と不安に感じていましたが、何が不安なのか整理できてよかったです。
- ・情報がなくて困っていたので助かりました。
- ・話を聞いてもらい、力をもらえました。気持ちの整理もできて勇気づけられました。
- ・やるべきことが分かりました。
- ・誰にも話せないことをしっかり聞いてもらい、気持ちが楽になりました。
- ・来週、外来に行って検査してもらおう決心がつきました。
- ・少し気持ちが落ち着きました。
- ・自分だけじゃなく、悩んでいる人がいることがわかってよかったです。
- ・どうすればケアを受けられるか、わかりました。
- ・ホットラインのようなところがあることで、患者も救われます。ありがとうございます。



電話相談はこちら

03-3562-7830

予約不要・秘密厳守・匿名可
通話料は相談者の負担となります。

毎日（祝日を除く）

午前10時～午後6時

※相談内容については、日本対がん協会が個人を特定しない統計情報として使用する場合がありますので、ご了承ください。

ホットラインで働く



相談員の声



うれしかったこと

- 患者さんが亡くなったあと、ご遺族から「ホットラインで話を聞いてもらえていたから耐えてこられた」とお礼の電話をいただいたこと。
- 相談開始時に暗い声だった相談者が、明るい声になったとき。
- 「これからやることが見えてきた」と言われたこと。
- 「担当医の発言の意図が分からない」と担当医との関係に悩まれていた方が、「担当医がなぜそのようなことを言ったかが分かった」と言われたこと。
- ホットラインに救われたから、たくさんの人に利用してほしいとおっしゃり、寄付をしてくださったこと。
- 「また明日からの治療を頑張れそうです」と前向きな気持ちになられたと感じたとき。
- 「残りの時間に限りはあるけれど、生きていく意味があると思えた」とホットラインで生きる力を取り戻された方がいたこと。



リレー・フォー・ライフにかかわる皆さんへ



「ホットラインに支えられた」と多くの方から感謝の言葉を頂きます。

RFLに寄せられた寄付でホットラインは成り立っていることを考えると、RFLに関わる皆さんにも繋がる言葉だと思います。そして、ホットラインは皆さんに支えられているということ、寄付金は単なる「お金」ではなく、生きる希望や人の心をも救う温かみのあるものになるということを強く感じています。

日々、沢山の相談を受けていますが、がんを克服して元気に生活している方、がんと共存しながらその人らしく生きていらっしゃる方がいることを知らない方がまだまだ多いのが実情です。テレビで有名人ががんで命を落とした話題を目にすると、自分もそうなるのでは…と不安になったり、希望が見出せないと苦しい気持ちを持たれている方も多くいます。

しかし、RFLを知ったことで「私もあんな風に笑えるように治療を頑張ろうと初めて思えました」と話してくれた相談者がいました。RFLでがん患者さんがいきいきと歩くその姿が、相談者の心の中に希望の光を灯したのです。

RFLは参加できない方にとっても生きる勇気や力になるとても意味のある活動です。関わり方は違っても、私たち相談員も「がん患者さんのために」という志は皆さんと同じです。これからも、私たちががん相談ホットラインもRFLと共に歩んでいきたいと思えます。

がん相談ホットライン一同